

足立さんからバトンを受け取った江野本です。

私は、中村文夫さんに誘われて、教育財政部会に参加させていただいています。欠席することも多いのですが、皆さんから刺激を受けることがたくさんあって、大事な学習の場になっています。リレーエッセイのお話が来たときに、「いつまでに書くのですか」と伺うと、「1月中に投稿できればいいのでは」とのこと。それなら、と引き受けたのに2月になってしまいました。さあ、何か書かなかっちゃ。あれこれ考えた末、昨夏からかかわっている「俳句掲載拒否『事件』」について書くことにします。

「俳句掲載拒否『事件』」とは、「公民館だより」に「梅雨空に『9条守れ』の女性デモ」の句が掲載拒否された問題です。さいたま市立三橋公民館では、三橋公民館で活動する句会が選んだ一句を、毎月発行する「公民館だより」に掲載してきました。昨年6月の例会で特選に決まり、掲載句として公民館に提出されたのが、「梅雨空に・・・」です。

ところが、提出した翌日、句会の代表代行のところに、公民館職員から「世論を二分するテーマが詠まれている。公民館の意見と誤解を受けるので掲載できない」との電話連絡が入りました。これが事の発端です。代表代行と作者本人は、不掲載は納得できない、と掲載を求めました。

7月4日（金）、東京新聞がこのことを報じたのをきっかけに、「黙ってはいけぬ。抗議しよう」との友人の呼びかけで、翌週7日（月）に市民8人で所管する生涯学習総合センターに抗議に行きました。「表現の自由を侵害している」「句会が選んだ句を選別するなんて検閲ではないか」「自由な学習活動に介入していいのか」「公務員の憲法遵守義務に反しないか」等々、口々に抗議する私たちに、生涯学習センターの職員は、「句会の活動は自由。介入しているわけではない。世論が二分しているテーマは公正中立であるべき公民館の刊行物に相応しくない」の一点張り。

それから半年、私たちは、市民の集いを3回開催（市外も含め、参加者はのべ250人を超える）し、公民館長を含めた生涯学習総合センターとの数回にわたる話し合い、教育委員会への請願・傍聴、市議会への働きかけ、公民館運営審議会の傍聴等々を行い、作者や三橋公民館運営協議会とも連携しながら「地域的解決（三橋公民館を中心に地域で解決していく）」を求めてきました。また、この間、金子兜太さんはじめ多くの識者から、公民館の判断は間違っているとの表明がなされたり、危機感を持った社会教育の専門家によるシンポジウムが開催されてきました。しかし、季節は梅雨空から冬空に変わった今も、「公平中立」を盾に、教育委員会は掲載を拒否しています。

「俳句掲載拒否『事件』」以外にも、「国分寺まつり」への「九条の会」の参加拒否や調布市の「憲法ひろば」が主催する10周年行事への後援拒否など、同じような事態が相次いでいます。特に、第二次安倍内閣発足以降、顕著になっているような気がします（勿論、それ以前からありましたが）。では、自治体は何を根拠に拒否をしているのか。「政治的中立」を口実にしながら、実は安倍内閣の軍国主義的空気を読み、自治体が自粛しているような気がします。

俳句掲載拒否なんて些細なこと、と黙ってしまえば、自粛はさらに深まっていくに違いありません。おかしいと感じたことには黙っていない。声を上げ続けようと思っています。

次は札幌市の草刈 智さんにバトンを渡します。